

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091900031		
法人名	医療法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 桃源郷		
所在地	長野県東御市祢津323-3		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成29年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは田園風景の中に同形式の建物が2棟あり、遠く蓼科山、ハケ岳連峰を望み、落ち着いた雰囲気をかもしだしています。建物内は全てバリアフリーで、中心にホール、居間、台所が設けてあり、囲むように一人1室の居室が配置されています。利用者様はゆったりと日々の生活を送っており、家族や親戚、友人が見えても十分な空間が保持でき、プライバシーを保つことが出来ます。地域交流もあり、地元の古くから伝わる歌舞伎見学や地元の保育園や小学校等の交流も行われております。利用者様に季節を感じて頂くために、お花見や紅葉狩り、外食など外出イベントも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠く立科、ハケ岳連峰の四季折々の姿を望み、田園の中に認知症対応型共同生活介護事業所桃源郷がある。医療法人の“地域を愛し人を信じる”という方針のもとに、診療所、老健施設、訪問看護、訪問介護等の事業所が集中しており、入居者や家族が安心して生活できる環境にある。建物はバリアフリーで居室を囲む回廊式廊下で日々の歩行訓練、生活リハビリを積極的に取り入れている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(桃源郷)		項目		項目			
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>実践につなげている。</p> <p>月1回のグループホーム合同会議、桃源郷会議、カンファレンスの中でも基本方針などを確認している。</p>	<p>法人の理念のもとに、グループホームの理念が作成され、朝礼・定例会を通し職員と共有し実践化に取り組んでいる。室内に掲示もある。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に交流している。</p> <p>地域においては区民となり、地域の行事に参加している。区民による歌舞伎や小学校の音楽会、保育園の運動会、お正月には地域の獅子舞などに参加している。</p>	<p>地域を愛し人を信じるという指針にのっとり、区に加入し地域の活動にも参加している。保育園や小学校との交流も行われている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>活かしている。</p> <p>区の区長、民生委員、消防部長などに運営に関して会議を開催して、現状報告、問題等提起してお互いの意見交換をして、支援などして頂いている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活かしている。</p> <p>運営推進会議は行政、区長、民生委員、家族などの参加で会議を開催して、現状分析、課題など報告して、適切なアドバイスを頂き実践に活かしている。</p>	<p>今年度より年6回開催し、行政、事業所、消防署、家族代表の参加のもとに、入居者の状況、事業所の活動内容の報告をし合いサービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議の開催日数は確保できたので、今後運営推進会議の活用方法を地域に発信できることを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>申請書に付いても郵送に頼らず、窓口に行き、コミュニケーションを図り、また、包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し、可能な限り対応している。</p>	<p>郵送に頼らずに市町村の窓口に出向き、コミュニケーションを図っている。行政とケースの相談や会議に出席するなど協力関係が築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。</p> <p>毎年、法人として全体研修があり、職員は身体拘束に付いての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。</p>	<p>学習会で身体拘束の理解ができ不安や混乱を取り除ける対応を考え、センサーマットや低床ベットなどで工夫して、日々拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>取り組んでいる。</p> <p>毎年、法人として全体研修があり、職員は虐待に付いての理解ができており、日々の対応に付いても注意を払っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>活用できるように支援している。</p> <p>この地域は社協が窓口になっており、独居の老年寄りが将来財産上の問題が予想される場合には相談をしており、また、本人が希望した場合は司法書士などにもお願いもしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、理解、納得を図っている。</p> <p>入所時、解約時、改定時には十分な説明をしている。特に金銭的なことに付いてはトラブルを回避する為、利用者家族から承諾を頂いている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に反映させている。</p> <p>運営推進会議に利用者の家族参加、家族参加による納涼祭やクリスマス会を開催して職員、家族同士の話し合いの場を設けている。その中で家族の意見を汲み上げている。</p>	<p>運営推進会議・家族参加の行事や面会時、意見箱の設置などで家族からの意見を汲み上げ、全体会議やグループ会議などで検討して運営に反映するように努めている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>反映させている。</p> <p>月1回の合同ミーティング、各グループホームのミーティングにおいて、職員の意見、要望を聞く機会を設けている。</p>	<p>月1回合同ミーティングでケースの情報交換、シフトに関するなどが話し合われる。法人全体の研修会もあり運営に反映させる仕組みがある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 年2回評価を実施しており、給与、賞与に反映し、労働条件については職場環境、個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みをしている。 法人内で2か月に1回の研修会を設けている。また、介護技術向上のための研修会もある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでいる。 ネットワークはあるが参加がなかなかできない現状である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 家族、本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などに付いてうかがいし、要望に沿うようケアに活かし、施設で楽しく、穏やかに生活できる基礎資料を確保している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。 入所する前にご家族からの要望などお聞きしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。 入所時にご本人及びご家族からの要望などうかがいしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。 職員は利用者本人のADLに応じて、洗濯物たたみ、お茶の用意など一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。 面会や電話などでご本人の状況などお話しさせて頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。 利用者様の知人の方や家族が見えたり、面会などいついらいしても受け入れており、面会規制はしていない。	なじみの人との関係が途切れないように孫の訪問、年取り年明けの面会で多くの人との関係が保てるよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。 歌のボランティアの方が見えられるときなどは、利用者様全員が参加するように声をかけている。また、レクリエーションなどは利用者様全員で参加できる種目を選んでいく。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。 退所して、同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。 入所時に家族、本人の希望をうかがいして記録表に記入している。また、好きなこと、嫌いなこと、趣味などを把握して、一人ひとりの暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。	日常の言動や友人同士の会話、表情から思いを汲み取る関わりをもち、入所時の情報や家族の意向をうかがいながら、本人の意向把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方などに付いては入所時に聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌、日課記録表により現状把握を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。 本人や家族の希望などをうかがいしてプランに反映している。また、グループホーム会議などでも検討して反映している。	本人や家族の意向や心身の状態の変化など計画作成に反映させている。書式は分かりやすい形式で月1回モニタリングが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。 業務日誌や個人記録に記入している。また、職員の申し送りノートで情報の共有を図っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。 家族や利用者様の相談に応じ、要望や要求に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。 地域との関わりを大切に、小学校の運動会や音楽会への参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>支援している。主治医は法人内の診療所になっており、容易に診てもらえることができる。定期以外の臨時の受診は家族に様態、状況を説明し納得を得られている。受診表を提出して、即対応されている。他医院の受診もある。</p>	<p>同法人の診療所を主治医にもつ入居者が多い。2週に1回の往診で状況把握ができ、臨時の受診も家族、診療所と連携がよい。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>支援している。 法人内の訪問看護と連携を図り、常日頃相談をして、アドバイスを受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>関係づくりを行っている。 病院に入院した際にはサマリーにて、こちらの情報を提供して、入院中においては、医師から患者への病状の説明などに参加させてもらい、常に情報を共有できるように努めている。そして早期に退院できるように相談もしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。入所時に急変、重度化した場合、この施設で可能な医療、介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。他医院に移る場合などは家族、本人に希望を聞き、家族が選んでもらうようにしている。</p>	<p>家族の希望に寄り添い、重度化の看取りには対応していく準備はできている。しかし、隣接する多様な施設があるので、家族の理解と同意がこれからの課題のようだ。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>実践力を身に付けている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力体制を築いている。 スプリンクラー、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。また、消防団も参加している。</p>	<p>年2回外部関係者の協力を得て避難訓練を実施している。隣接する法人の支援体制と備蓄品の準備もある。職員対応も周知されている。</p>	<p>入居者さんの現状に合った計画を立て、消防署などの専門的立場から、避難誘導の安全確認の対策を望む。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。 言葉かけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや、視線を合わせ話したり排泄、入浴時は同性対応に心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 職員側で決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢ができるような質問を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援している。 起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごして頂くように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいく。2か月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応じていく。利用者さんによっては、地域の理髪店に行かれる方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	支援している。 それぞれの能力に応じて役割分担している。お茶を注ぐことや食器拭きなどをして頂いている。	法人の栄養士が献立を作成し食事に関する一連の流れの中に利用者さんの力が発揮できるところで個々人が活躍している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。 食事摂取量や水分摂取量に付いては毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。献立に付いては法人の管理栄養士に作成して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	対応している。 毎食後、口腔ケアを行っており、就寝時には義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援を行っている。 常に排泄チェック表に記入し、その方に合った排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるように努めている。	排泄チェック表に記入し、排泄パターンに合わせ習慣化とパターンに応じた個別支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。 排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたりと便秘にならないようにしている。便秘傾向の方には主治医に薬を処方して頂いている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援をしている。 現在曜日での入浴になっており、時によっては希望に沿えないこともある。	週2回の入浴を基本に本人の意向に沿った入浴支援が行われ、ゆず湯などの楽しみも取り入れられている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。 利用者それぞれの生活パターンを職員は理解しており、休みたい時などは、自室かホールのソファなどで休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に努めている。 それぞれの利用者が服用している薬は薬情を診療所より頂いており、職員は把握している。服薬に関しては職員が管理し、飲むまでの確認は常に行っている。状態変化時は主治医に相談し、支持を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。 その方の能力のあった役割分担をしており、食事において本人の希望に沿って献立を変更したりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 地域の歌舞伎見学や小学校や保育園の行事に参加したり、外食で回転寿司や一般の食堂に出かけ、気分転換を行っている。	入居者全員で花見、地域の歌舞伎見学、外食などに出かけたり、気分転換や五感刺激の機会として個別支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じ、家族との話し合いでわずかな金額を預かったりして、本人の希望、要望に沿って対応している。また、本人自身が所持されている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。 入居者様が家族や知人などに連絡したい時、電話にて対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 施設内にいると、季節感に疎くってしまう傾向がある為、月ごとのカレンダー作りや季節に応じての外出を行っている。また、季節に応じて、施設内の温度管理を行い、居心地の良い環境作りに努めている。	日中活動の共用空間は、円形にテーブルを囲み五感への働きかけの工夫もあり、壁面には季節を感じる行事の写真が飾られている。廊下は回廊で生活リハビリが行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。 ホール、居室では気の合った者同士でテレビを観たり、皆でゲームをしたり、また、一人で新聞を読んだり、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ち頂くようにしており、人によっては仏壇を居室に持参されている。本人の希望に添えるようにしている。	本人や家族が持ち込んだ大切な写真や仏壇、お孫さんからの手紙などその人らしい居室づくりがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。 利用者方々がこの施設での生活が安易に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。		

目標達成計画

作成日:平成29年3月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議での内容に付いて、同じような流れと意見の少ない点に付いての改善。	毎回行う会議内容に付いて有意義に意見の出る会議にしたい。	当日配布では意見が出されにくいいため事前に、参加される方達へ会議で話し合う内容を配布し事前に考える時間を取る。	6ヶ月
2		緊急時の避難経路の確認と重要書類をすぐ持ち出せるようにまとまっていない点。	緊急時の避難経路の確保、保全の確認、重要書類に付いてはすぐに持ち出せるようにまとめる。	ベランダなど木製でかなり古くなっているので安全性や、避難経路は大丈夫かなど、消防署に依頼し確認と改善のためのアドバイスをもらう。重要書類に付いてはまとめてスタッフ全体で置く位置を決める。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。